

IgA抗体活用 今度はスプレー

福島医大、第2弾開発

マスクと来月販売

福島医大は、新型コロナウイルスの感染阻止に有効な「IgA抗体」を活用したIgA抗体配合スプレーを開発した。スプレーは、既に試作品を発表しているIgA抗体マスクとともに、12月1～6日に福島市のJR福島駅前にある、いちい街なか店で販売される。医大はIgA抗体を使っ



福島医大が開発したIgA抗体配合スプレー

た治療薬の開発を進めているが、研究成果をいち早く社会に還元するためにマスクとスプレーを開発した。

スプレーの1回の噴霧に約140億個のIgA抗体が含まれており、布マスクや洗えるマスク（ポリエステル素材）に吹き付けて使う。不織布マスクは水をはじくため使用できない。ディー・アール・シー（東京都）が製造し、いちい（福島市）が販売する。1本30ミリで希望小売価格は3278円。フィルターにIgA抗体が吹き付けられているマスクは、ゼファー（須賀川市）が製造を担い、IgA・JAPAN（郡山市）が販売する。希望小売価格は

20枚入り1箱3960円。
医大で研究を担当する高木基樹教授は「感染状況が落ち着いていてもマスクの着用は続けなければならぬ。不特定多数の人が集まる機会などで、感染を防ぐ能力の高いマスクを使用してほしい」と話している。